

第423回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

1 開催日時 2025年11月10日（月）

2 開催場所 テレビ新潟本社

3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

小原 清文	委員長	石井 宏明	委員
本宮 宏美	委員	迫 一成	委員
小山 厚子	委員	杉原 名穂子	委員
浜田 泰宏	委員		

書面での出席

大久保 千春 委員

会社側出席者

代表取締役社長	正力 源一郎
取締役コンテンツ本部長	河野 修三
コンテンツ戦略局長兼番組審議会事務局長	小林 健
報道制作局長	中川 幹子
報道制作局次長	須山 司
番組ディレクター・アナウンス部長	内田 拓志
事務局	鈴木 英門 坂上 寿史

4 議題

1) 番組合評

2) 「ドキュメント新潟 元軍医の遺言 特攻と覚醒剤」

2025年9月14日（日）16：50-17：20

3) 会社報告

- ① 10月の視聴者の意見 (報告:番組審議会事務局)
- ② 講じた措置、議事概要の公表 (報告:番組審議会事務局)
- ③ 訂正放送、取り消し放送の有無 (報告:番組審議会事務局)
- ④ 2025年度上半期種別報告 (報告:番組審議会事務局)

4) その他

5 審議の概要

会社側からは「この番組は戦後80年という節目に向け、特攻と覚醒剤を題材に取材を進めました。取材の開始から放送までのおよそ1年間に、お話を聞いた方のうち4人が亡くなりました。戦後80年という時の流れで、戦争当事者の声を聞くことが年々難しくなると改めて感じました。番組では、事実をバランスよく積み上げることで、当時の常識をストレートに表現しようと意識しました。その中で番組をご覧いただいた方々には、「戦争起きたら、どのような社会になり、どのような常識になるのか」ということを感じてもらえればと制作しました」という趣旨の説明があった。

(委員の意見)

- 戦争という重いテーマを、元軍医の遺言という個人の証言を軸にして伝えた、本当に意義深い番組だった。
- 特攻と覚醒剤という、これまであまり知らなかつた側面に焦点を当てたことで、新しい問題意識が生まれたのではないかと感じた。
- 覚醒剤がどのように軍に導入されたかなどの背景情報が、もう少しあるとより理解が深まったのではないか。
- 30分があつという間に感じられてしまうほど引き込まれた。さらに内容は番組尺以上の濃さだった。
- 今回得られた証言を番組・映像として残すことは、歴史を風化させないために大変意義がある事であると感じた。
- 知らなかつた事実が多くあり勉強になった。当事者の証言で伝えられてるので、よりリアルに重く伝わってきた。
- ナレーションが過度に感情的にならない冷静なトーンで事実を伝えていたことが、番組全体の信頼性や重厚感をより深めていた。
- 戦争当事者たちから大切な証言を伝えられた側が、今後はどのようにバトンをつないで次へ伝えていくのか。その大きさを改めて感じた。
- 全国に足を運んで証言を集めたディレクターの強い意欲を感じられた。とても質の高い番組だった。
- 資料映像とインタビューの組み合わせのバランスが良く、歴史の重みと、人間感情の側面が両立できていて素晴らしいかった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

10月……167件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会の開催日(2025年10月20日)から、

昨日(2025年11月9日)まで総務省に届け出た

訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

1) 前回第422回審議会では、

「そんなわけで新潟（ここ）にいます。」を審議いただき、委員の意見は議事概要にて記者、制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員、スタッフに共有しました。

8 今回の第423回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支局の県内事業所に
議事概要の書面を準備します。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項（委員への配布資料）

・第422回番組審議会議事録

・10月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表

・BPO報告（NO. 282）

・TeNY2025年度上半期 番組種別時間報告 以上